

予報期間 1月9日から1月15日まで

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要しょう乱の概要&gt;

- 11日にかけて、低気圧が急速に発達しながら日本海からサハリン付近に進み、12日にかけて強い冬型の気圧配置となる。
- 13日は、気圧の谷が北日本付近を通過し、14日にかけて冬型の気圧配置が続く。
- 15日は、気圧の谷が日本海にのび冬型の気圧配置が緩む。

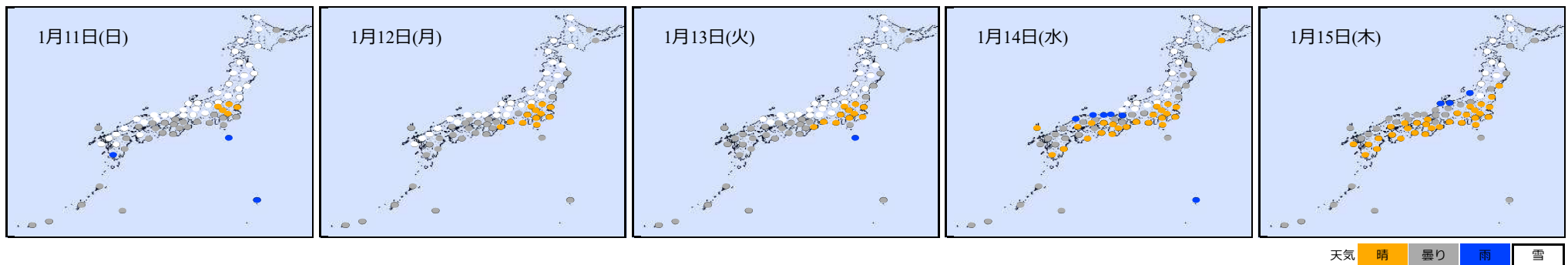
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 11日にかけて低気圧が急速に発達しながら日本海からサハリン付近に進む。その後12日頃にかけて日本付近には強い寒気が流れ込み、強い冬型の気圧配置となる。北日本や東日本から西日本にかけての日本海側を中心に大荒れや大しけとなる所があり、寒気の強さや冬型の気圧配置の強まりの程度等によっては警報級の大雪となる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

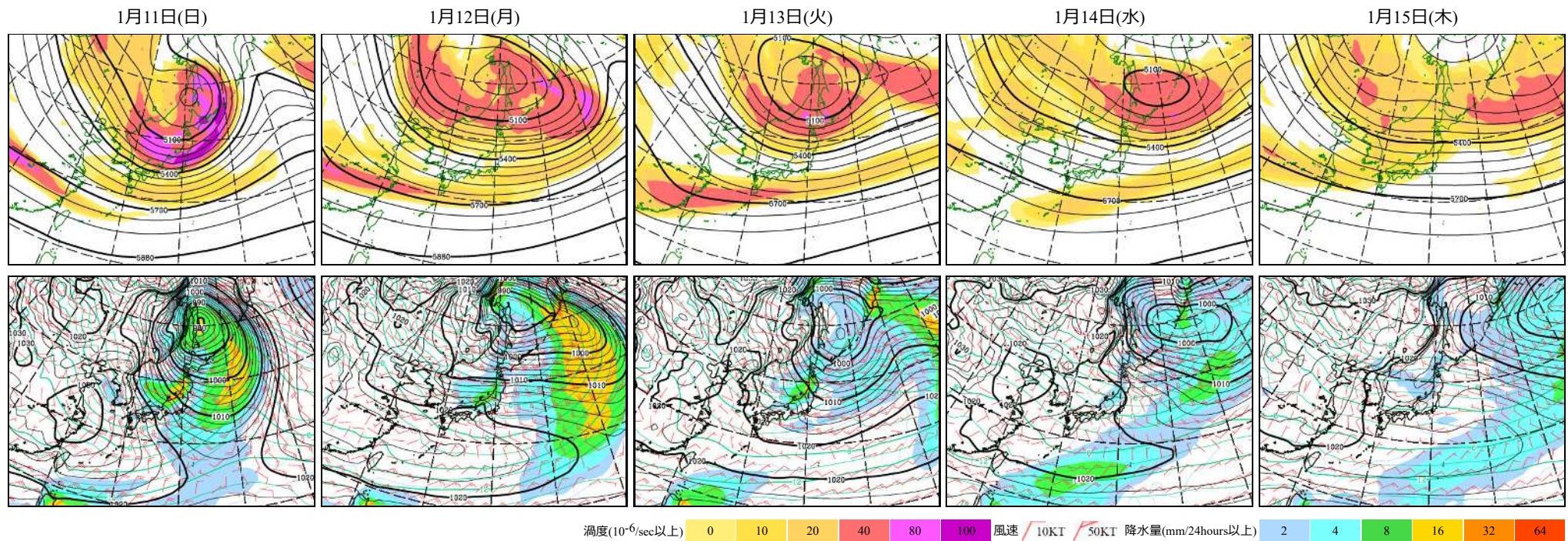
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



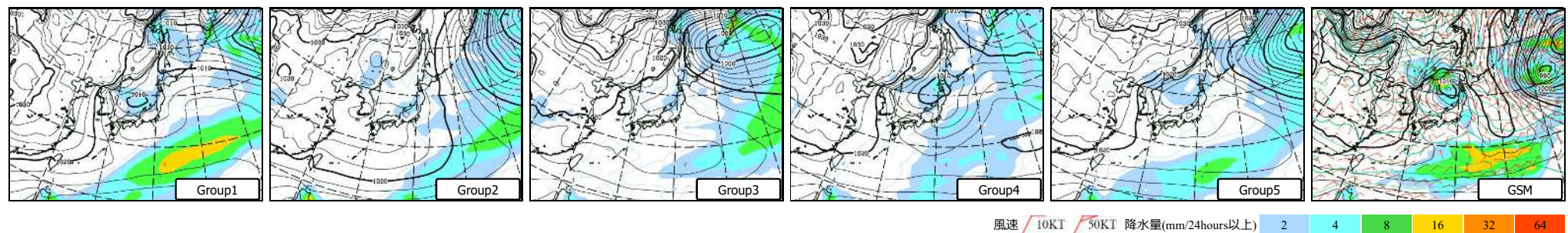
- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 西日本太平洋側は、曇りや晴れの日が多いが、11日は雪または雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすい。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月15日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、12日は、サハリン付近の低気圧が西に寄り、大陸の高気圧の日本の南への張り出しが強まった。13日から14日にかけて、日本の東の気圧の谷が浅くなり、大陸の高気圧が弱くなった。
- スプレッドは期間の終わりには大きく、5400mの特定高度線のバラつきも大きい。
- 11日頃を中心に冬型の気圧配置が強まることは各モデル一致しているが、期間終わりの気圧配置はモデル間で差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。